Nara Women's University Digital Information Repository

Title	朝日新聞データベースに挑むの記
Author(s)	山本, 那彦
Citation	山本那彦：奈良女子大学情報処理センター, Vol. 3, pp.89-99
Issue Date	1991-03
Description	
URL	http://hdl.handle.net/10935/3780
Textversion	none

This document is downloaded at: 2015-11-06T00:12:33Z

http://nwudir.lib.nara-w.ac.jp/dspace

利用の事例

朝日新聞データーベースに挑むの記

文学部助教授　山　本　邦　彦

1．はじめに

私は最近、必要があって、昔見た、といってもそう昔でもなかったような気もする朝日新聞のある記事を、どうしても捜さなければならなくなった。それはフランスで失業問題が深刻になった時期のころ、従って1980年代に違いないのだが、高学歴層にまで失業の波が押し寄せているという主旨のもので、物乞いする背広姿の紳士の写真が載っていたような載っていなかったような、それほどまでに記憶がぼやけた記事だった。

さて、その記事をどうして捜したものか。もちろんそのオリジナル紙はとっくの昔にチリ紙交換に出している。スクラップもしていない。となれば、図書館で縮刷版を繰るしかない。これは毎月一冊の形でまとめられ、記事索引も付いている。便利といえば便利だが、いざあたってみると、私のように何年の記事だったかも定かでない資料を月毎に繰って行く労力は大変なものだ。その上、老眼の始まった私の目には、縮刷版の蟻のような文字がことのほかこたえる。

ちょうどその頃、ＣＤ化された朝日新聞のデーターベース(注1)が本学の情報処理センターにあることを知って、おそるおそるセンターの門を叩いたのである。文科系の教師の多くがそうだが、私も機械に弱い。パソコンでかろうじて「一太郎」は使えるものの、大型コンピュータなぞというと、何をするものか、かいもくわからない。それの収まっている場所へ行くのは正直恐いのだ。だが、必要は勇気の母、と言ったかどうかはともかく、思い切って出かけて行って一安心。使用機種は馴染みのＮＥＣ98というではないか。それにＣＤ－ＲＯＭ(注2)ユニットという小型の箱がつないであるだけ。マニュアル(注3)片手に、試行錯誤を繰り返しながら、比較的短時間に検索はできた。しかも、慣れればアッと言う間に捜せるな、という感触を得た。

残念ながら、結果的には、私の求める資料はここになく、データーベース化が始まる前々年、83年の記事だったことが後でわかったが、決して無駄な努力をしたとは思わない。少なくとも85年以降ではないという事実が判明したのだし、何よりもまず今後この便利な資料が自在に使える自信が付いたのだから、むしろ大収穫というべきだろう。

これからこのＣＤソフトの使い方を私なりに説明し、その便利さと面白さを知ってもらおうと思う。

注1　日外アソシエーツと紀伊國屋書店が共同開発した「バイブルズ検索プログラムＣＤＰＲＯ」というデーターベース・シリーズの内のひとつで、「ＣＤ－ＨＩＡＳＫ（朝日新聞全文記事情報）」というＣＤソフト。1985年以降、毎年１枚ずつ発行されており、88年版からは過去３年間の総索引が付録として付いた。現在、

本学の情報処理センターに85年から87年までの版が、また附属図書館に88年と89年の版が所蔵されている。

注2　シーディ・ロムと読む。要するにＣＤのことである。

注3　「バイブルズ検索プログラムＣＤＰＲＯ取扱説明書」。このシリーズの汎用マニュアルであるため、ややわかりにくい所もある。「ＣＤ－ＨＩＡＳＫ」専用のマニュアルがぜひとも必要。

2．起動方法と日本語入力

起動はいたって簡単だった。まずＣＤ－ＲＯＭユニットのドライブにＣＤ（87年版を使用）をプラスチックのケースごと、矢印方向にセットし、次にバイブルズ検索プログラムのフロッピーディスクをドライブＡにセットして本体の電源を入れる。ただし、情報処理センターの場合は、ハードディスクにあらかじめこのプログラムが組み込まれているので、フロッピーディスクは一切使わず、次のように入力するだけですむ。

Ａ＞ＣＤＲＯＭ ↵

すると、まるでテレビニュースのオープニングのように、虹色に輝くＣＤの円盤を背景に、「バイブルズ」という大きなタイトルが現れた（図１）。見とれていると、画面が消えて、また同じオープニングが繰り返された。「あれっ！」と驚き、よく見ると、下に小さく“HIT RETURN KEY !”とあった。私は、思わず、バカボンのパパのように、「どうして英語なのだ！？」と叫んでしまう。

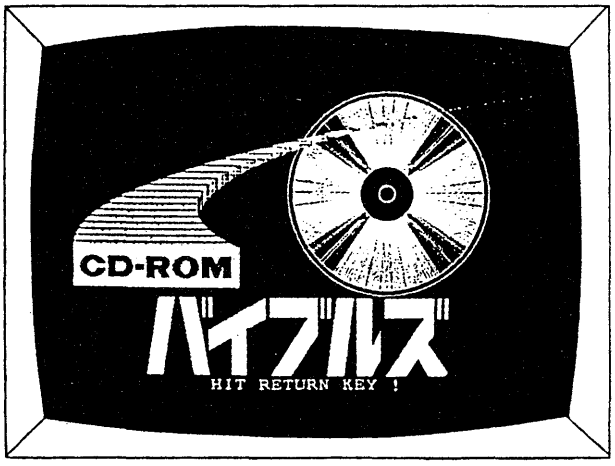

図1　オープニング画面

リターンキィを押すと、「登録ファイル一覧」が現れた。１年を３ヶ月毎の４ファイルに分け、各ファイルが１万４、５千の記事をかかえていることがわかる。検索希望のファイル番号にカーソルを合わせてリターンすると、前に星印（★）が付く。ファイル２とファイル３を選んだ画面が図２である。

CD-DISC0010　ＣＤタイトル：新聞・雑誌記事情報 3　　ファイル数：4

メニュー

	No.	ファイル表題	登録件数	横断
	1	ＨＩＡＳＫ’ ８７． １～３月 情報提供：朝日新聞社	13,076	1
★	2	ＨＩＡＳＫ’ ８７． ４～６月 情報提供：朝日新聞社	14,921	1
★	3	ＨＩＡＳＫ’ ８７． ７～９月 情報提供：朝日新聞社	14,805	1
	4	ＨＩＡＳＫ’ ８７． １０～１２月 情報提供：朝日新聞社	15,314	1

○ 検索する対象のファイルを選んでください。

[実行] [交換] [　] [　] [ﾍﾙﾌﾟ] [　] [　] [　] [印刷] [終了]

図2　登録ファイル一覧画面

この図にあるとおり、画面の下に次に行える操作が、ファンクションキィに振り分けて表示される。ここは迷わず [実行]（ｆ・１）を押す。すると、待望の「検索条件入力」の画面が出た（図３、但し条件未記入）。12の項目が設定され、条件の入力を待っている。まずはキーワードからと思い、項目２の「キーワード（漢字）」にカーソルを移す。 [CTRL] ＋ [XFER] で日本語入力となるのは、他のアプリケーションソフトと同じである。さあ入力だ。ところが、どうも、いつものＡＴＯＫ(注4)とは様子が違う。どうやらフロントエンドプロセッサ（ＦＥＰ）はＮＥＣＡＩらしい。これだと、ｆ・３で「かな」と「カナ」を切り替え、ｆ・６で「半角」の切り替え、そしてｆ・２で「英数」の切り替えとなる。変換は [XFER] だ。

さあ、これでいよいよと思ったが、またつまずいた。試しに、“あすか”と打って“飛鳥”を期待したが、うまく変換できない。画面をよく見ると、“あ”の字が１、２ポイント小さく、“ぁすか”となっていて、どうやらそこに問題がありそうだった。そこで、いろいろ試した末に、やっと [CAPS] をONにしておかねばならぬことがわかった。

注４　エートックと読む。ジャストシステムの開発した日本語ＦＥＰで、「一太郎」に組み込まれている。

３．いざ検索！

まず試みに、87年の中６ヶ月間に奈良近辺の考古学関連の記事がどれだけ載ったかを調べることにした。マニュアルには、「一つの検索項目内での条件は１回に２ヶまで」とある。そして、い

わゆる論理演算ができるという。2個の条件を“＋”で繋げば論理和（ＯＲ）で範囲は広くなり、“＊”で繋げば論理積（ＡＮＤ）で範囲は狭くなるわけだ。項目間の演算は先頭に“＋”を付けない限り、自動的に論理積（ＡＮＤ）がとられるらしい。そこで私は次のように条件を設定し、CTRL ＋ XFER を押した(注5)（図3）。キーワードに“飛鳥”を加えることで“奈良”で漏れたものが救えるかもしれないし、主題に“考古学”をかぶせることで、奈良の鹿がどうしたとか、奈良女子大学がどうしたとかいう記事は全部カットできるはずだ。

CD-DISC0010　　ファイル　：　2, 3　　全件数　：　29,728
検索条件　　前回までの件数　：　0　　ファイル数　：　2

No.	項 目	条 件
1	キーワード（カナ）	
2	キーワード（漢字）	奈良＋飛鳥
3	主題分類コード	
4	主題分類（カナ）	
5	主題分類（漢字）	考古学
6	国別分類コード	
7	国別分類（カナ）	
8	国別分類（漢字）	
9	記事種別分類コード	
10	写真・図の有無	
11	掲載日付・頁	
12	索引記事番号	

検索　削除　行削除　ﾍﾙﾌﾟ　ｵｰﾙｸﾘｱ　ﾌﾞﾗｳｽﾞ　ﾛｷﾞﾝｸﾞ　印刷　終了

図3　検索条件入力画面

ここでも迷わず 検索 （ｆ・1）を押す。その結果、予想に反して、図4のような画面が現れた。ここには各検索語の該当件数しか出ていない。

この表の下に「○　ファンクションキーで処理を選択してください。」と指示が出ているので、保存 （ｆ・1）を押すと、同じ表の下に、「○　今回の保存件数は5件でした。」というメッセージが出た（図5）。

なるほど、保存 の段階で論理演算をしていたのか、と納得して、次に移る。このあたりまで来ると、私にもだんだん要領がわかってきた。ｆ・1を順に押して行けば、検索の流れに乗れるのだ。次のｆ・1は 一覧 だ。それ、押せ！出たあ！求める記事の見出しが5つ、日付、朝夕刊の別、頁、写真図表の有無、全字数とともに並んでいる（図6）。

次の 詳細 （ｆ・1）は少し様子が違った。押すと、「○　出力形式と番号を入力してください

〔 〕〔 〕」の指示が出た。[ヘルプ]で調べると、前の括弧の出力形式には1～3の数値を入れよ、とある。数値が増えるほど詳細の度が増すらしい。後ろの括弧の番号には一覧表示内容の左端番号を指定する。範囲指定は“：”（コロン）で繋ぎ、とびとびの番号は“,”（カンマ）で区切ればよい。そこで私は次のように入力した。

〔1〕[↵]　〔1:3,5〕[↵]

すると、みごと、見出しに前文を加えた記事が指定どおり現れた。図7はそれを[印刷]（f・9）でプリントアウトしたものである。

ものは試し、と出力形式2で表示させたものの一部が図8である。先の前文がここでは全文にかわっている。ややこしいなあ！出力形式3でも試したが、今回は2と同じ結果が出た。

注5　日本語入力後、検索に移る時には、必ず日本語入力モードを解除しなければならない。業界では常識の操作でも、素人にはやっぱり煩わしい。何とかならないものか？

CD-DISC0010　　ファイル ： 2, 3　　全件数 ： 29,726
検索条件　前回までの件数 ： 0　　ファイル数 ： 2

No.	項 目	条 件	件数
01	キーワード（漢字）	奈良	49
02	キーワード（漢字）	飛鳥	6
03	主題分類（漢字）	考古学	78

○ ファンクションキーで処理を選択してください。

[保存] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ﾛｷﾞﾝｸﾞ] [印刷] [終了]

図4　検索状況(1)画面

CD-DISC0010　　ファイル　：　2, 3　　全件数　：　29,726
検索条件　　前回までの件数　：　0　　ファイル数　：　2

No.	項 目	条 件	件数
01	キーワード（漢字）	奈良	49
02	キーワード（漢字）	飛鳥	6
03	主題分類（漢字）	考古学	78

○　今回の保存件数は5件でした。

一覧　[　][　][　]　ﾍﾙﾌﾟ　[　][　]　ﾛｷﾞﾝｸﾞ　印刷　終了

図5　検索状況(2)画面

CD-DISC0010　　ファイル　：　2, 3　　全件数　：　29,726
結果一覧　　前回までの件数　5　　ファイル数　：　2

No.	内　容
1	奈良の平城京跡で「三文の得」見つかる ’８７．６．１０　朝刊　２５頁　写図有　（全２８６字）
2	聖徳太子の「上宮」跡か　奈良県桜井で古代石敷き床発掘 ’８７．６．１２　朝刊　１頁　写図有　（全１８４１字）
3	奈良でのろいの木簡発見 ’８７．６．２０　朝刊　２９頁　写図無　（全２４１字）
4	小治田宮と土器に墨書　飛鳥の宮殿跡を示す資料見つかる ’８７．７．１４　朝刊　２６頁　写図有　（全８５５字）
5	６棟の大建物跡も発見　たしかに聖徳太子の上宮跡だ ’８７．９．１８　朝刊　３０頁　写図有　（全１３５２字）

詳細　[　][　][　]　ﾍﾙﾌﾟ　[　][　]　ﾛｷﾞﾝｸﾞ　印刷　終了

図6　結果一覧画面

```
**********************************************************************************
*                                                                                *
*                          バイブルズ［詳細印刷］                                *
*                                                                                *
* CD-          ファイル：                          全件数：          0           *
*                                                                                *
*                          保存件数：      5                                     *
*                                                                                *
**********************************************************************************
[ 0001 ]
●記事番号●870610109
●見出し●奈良の平城京跡で「三文の得」見つかる
●前　文●　国たりの強がれ足」が（字）わらに（字）方（字）見たね文う）6れ束0ほの8らでくと2造モ1ゃ拠全にヒ、び証（）、りうた紀がおょっ有世枚てしあ図（87出（ら写（め）ね百代頁初ん束省時5代ち枚「良2時い7た奈良か9せく刊奈うじさ古朝、ど同用年どわも通0ほ（にて0得」1の琢年し5の7と約こ開7で同5束りの文6.跡和。た。文よ87.京城幣っ1000説の平貨か1来。の造つを従。市鋳見の、いる良のでもがてる奈初態い行っ最状な慣まっ
[ 0002 ]
●記事番号●870612001
●見出し●聖徳太子の「上宮」
●前　文●　十みたやと精位とっ床」や（字）冠部かの跡識字や一つ特宮学う1法の見独上の4憲やや）でた「子1条みやつれた全七つみきこい掘（十みの敷、築。発、かえをりをる床有み、（う石お礎な敷き図住」（原てのと敷写で宮宮河れ々り石ま上之とさ数か代頁歳「上り掘にが古12る市し発本手で3れ井っが日な井刊がさ桜びど期要桜朝）と県。な）重良年た良た部いる奈122練い表のい明か6.6を近発物れ解跡4構鳥委な明ど宮85ど、市壮、景上（ながて同、ば背子定構、溝れの太制遺日のれ仰徳のる1みさ信聖階れ1組認、二らと石確神、
[ 0003 ]
●記事番号●870620106
●見出し●奈良での'87別せ時セ）
●前　文●　円前チか長名ンつ（）にのセせる字）う人6はあ1よ、.（て4のと7呂れ2一字横万か全バ文、若書（ーいチ）とロレン部どく無クらセ（な図の葉2マ」写葉言1丈^つの縦「つ頁4いい。にば9、ろた中天2どのっの「ほにか円に刊の中つ長き朝この見のわでそがれの0跡、簡ぞそ2宮き木れ、6.城描のそり、平をめ。あ見発簡史代ン」木7.跡絵初チと特さ良8ろ）の差奈1.ま市交た1.か良ついさわ奈4書厚の、べ
[ 0005 ]
●記事番号●870918123
●見出し●6棟の'87.世敷が3のれ型期も86石群約棟さ原前跡'がる物西6とのい子れ建東計た殿な太ら大、むい宮ら徳見のル含にのか聖と期トを宮鳥わ部時一築之飛くる。
●前　文●　一同メ建上。よい（）のは0式がたがて字」度4床子っ態み2）今約高太な実と5や、北、く、に「」3みで南めく実はる1つ跡。じ確委な全み遺たは同が教に（か宮しをとと市り（之表殿構こ同か有宮上発主遺る、が図上のがのきあで手跡写「市委央敷で置る宮た井教中石構配知上頁し桜市のも遺物をの0ご県同地れの建子3過良、掘ず子の様太を奈日発い太古の徳刊期た7ぶ。最殿聖朝年し1及たしる宮に青土とにっ致れのか8ろ出たルあ一ら前し1ごがっトがとえ以た.末構かー跡期考宮9の遺つメ物時も波見発7.紀き見0建ると難発7世敷が3のれ型期も86石群約棟さ原前跡'がる物西6とのい子れ建東計た殿な太ら大、むい宮ら徳見のル含にのか聖と期トを宮鳥わ部時一築之飛くる。

情報提供：朝日新聞社
```

図7　詳　細　印　刷　（出力形式1）

[0003]
●記事番号●870620106
●見出し●奈良で
●全　文●
　円前チか　の
長名ンつ
）　、
にのセせるう
字う人６はあよ
２）今約高太な実と
１よ、（てす
５や、北、に「」
４のと７呂れ下
２一字横万かを
全バ文、若書罰
（ーいチ）と天
ロレン部どに
無クらセ（な部
図の葉２マ」呂
写葉言１丈＾万
つの縦「つ若
頁４い。にば部
９、ろた中天丈
２どのっの「が
ほにかか円に神
刊の中つ長きの
朝この見のわ方。
　でそがれの四る
０跡、簡ぞそ「い
２宮き木れ、はて
．城描のそり授み
６平をめ。あ教と
見．跡絵初チと大」
発７史た代ン」良簡
木８別せ時セ）奈木
の，特さ良８ろ・た
いの差奈．ま好け
ろ市交た１か正か
の良ついさわ野を
奈４書厚の水い
をを、べ　ろ

[0005]
●記事番号●870918123
●見出し●６棟
●全　文●
　一同メ建上。よい
）のは０式がたがて
」構の、そ
字」度４床子っ態み
２）今約高太な実と
５や、北、に「」
３みで南めく実はる
１つ跡。じじ確委な
全み遺たは同が教に
（か宮しをとと市り
（之表殿構こ同か
有宮上発主遺る、が
だ図上のがのきあで手
跡写「市委央敷で置る
宮た井教中石構配知
上頁し桜市のも遺物を
の０ご県同地れの建子
子３過良、掘ず子の様
太を奈日発い太古の
徳刊期た７ぶ。最殿
聖朝年し１及たしる宮
に青土とにっ致れの
か８ろ出たルあ一ら前
し１ごがっトがとえ以
た．末構かー跡期考宮
９の遺つメ物時も波
見．紀き見０建ると難
発７世敷が３のれ型期
も８６石群約棟さ原前
跡，がる物西６とのい
物子れ建東計た殿な
太ら大、むい宮ら
徳見のル含にのか
聖と期トを宮鳥わ。
部時一築之飛くる。
全物のよ　間かに　前し　チき空　門０　馬い殿　いう
　柱分き「ら
の建れ
構とろ
遺棟でも
ル部たル
ト２し。
６、いー。土た一総
はり較、
の掘比は
たにの跡
．チ先び．やン
６ン、伸３、
セ中建
１セはが北」
０途、
西０ら）南屋
５、は
東３かル、西
幅で側
（ル北
に南
大い鳥
上は
る、飛。は白
の構。あらがるが空
地遺るがか造い姿の
台、いのろ構て、史
たててもごのれ模宮
の２い
っ見しの半らさ規代
側長て。
西全ちたなと定風後れとど古
２約、のっい柱入路方北。
群、落っにる推殿紀こぞほ、
２側ち末かき２出通四南た物れか谷あと主世、なば構
６南う紀わ大（いの間にい建伸流分がが模、５で、遺れ
一、の世と番ルし風柱かてたにへと西ど規にど的かか宮掘
４めそ６構一ト廊３ほれし北側い東なル中な分の之を
７た。遺で一段回、。さ土南東し、クトだ跡部く上南
５むたに跡メ階のはた置出に、らはサーん遺がつ「に
（かしも代物５に形にっ配にら過園構はメ囲寺掘びはら。
子つ認と時建北側字面あが先さ通庭遺に方でツ発結委さる。伴二７紀の性思日
太を確とのの南南Ｌ正が物、を、の囲平塀三もう教。見を長、世前能に朝
徳像を構前つ、、け殿」建たも構で体周０や・れど市ると園本は半の可う：
聖体跡遺り６）れ向主殿いま）遺間全、０溝県ずと同え」庭宮廊り殿のよ供
　回よ主物の提
情報

　くれ。建設
つこだの施
りはえ層た
取構構２し
に遺のなな
舎の風うて
殿回殿よも
　今宮るを
話。たあ客
のたっに、
長い伴）り
室でをわよ
究れ園にう
研ら庭はい
物み、（と
造とが、輪設
建初い埴施
所最さ形的
究が小家公
研宮は、た
財波模もっ
化難規物と
文期。建を
立前たい務
国のい近政
え良ば驚に。
構奈半、形る。社
た・紀く方あれ聞
構とが、輪設
建初い埴施
所最さ形的
究が小家公
研宮は、た
財波模もっ
化難規物と
文期。建を
立前たい務
国のい近政
え良ば驚に。

図8　詳　細　印　刷　（出力形式２）

4．キーワードで遊んで見ると…

要領がわかると面白くなって、もっと試してみたくなる。[終了]（f・10）で図3の検索条件入力画面まで戻り、[オールクリア]（f・6）で今までの保存データを全部消し、今度は「キーワード（漢字）」に“米”と入れ、それだけで検索にかかった。すぐに結果は出た。半年間で実に904件。さすが主食の扱いは、と思いきや、一覧表示を見て唖然とした。「米でエイズ赤ちゃん激増」「米ソ、化学兵器廃棄施設を相互訪問へ」「イラク、米艦への攻撃認める」… ことごとくアメリカの話ではないか！米（コメ）はないかと目を皿にして捜したら、あった、あった、アメリカの洪水に呑み込まれるようにして、辛うじてあった。「飯米農家でも応分の転作を」「弥生の米作　青森」。そして、一瞬、我が目を疑った。「米朝師匠、小尻記者霊前に取材予定のアメ」。落語家の桂米朝が“米”のキーワードでたどれるのか！まさか。ひょっとして、“アメ”を“アメリカ”と間違って記録したのでは？まさか。ここで詳細画面を出して、謎は解けた。米朝師匠が記者の霊前に捧げた「ヒノデ阿免」というアメは米で作る、とある。ああ驚いた。さらにページを繰ると、うへっ！またまた米朝だ！「米朝外交官、すでに接触」。ほっ！

どうやら新聞は、アメリカは“米”、穀物は“コメ”と表記をかえて、混乱を避けているらしい。「コメの交渉は困難　農水相が米に表明」など、その典型的な例だろうが、ときどきコメが米に紛れ込む。しかもそれが日米貿易摩擦の要に来たりするから、話はますます混乱する。先年、さる高官がかの地に赴き、「わが国は瑞穂の国、貴国は米国、ともに米の国です。お互い仲良くやりましょう」と変なジョークを交えて挨拶し、顰蹙を買ったとか伝えられているが、新聞の表記を見るかぎり、日本はもうとっくに米の国ではない。いや、対米追随だから、やっぱり米の国だ、というのは、もっと悪い冗談。

“米”で遊んだついでに、“仏”もやってみよう。件数は減るが、決して少ない数ではない。結果を一覧すれば、フランスの話題がずらりと並んでいる。と思いきや、嫌みなやつはここにもいた。「お布施は坊さんが決めるの」「仏壇から反乱」…

それではいったい、こういう異物を取り除くにはどうしたらいいのか。わけはない。「キーワード（カナ）」[注6]に“アメリカ”とか“フランス”を設定するか、国別分類[注7]に国名を書き加えれば、異物は直ちに消える。

しかし、実を言うと、キーワードに“米”や“仏”のように、件数が何百とありそうなものを設定すること自体、間違っている。もっと使用範囲の狭いものを選ぶべきだ。どうしても“米”にこだわるのなら、ブラウズ機能を使って最適の検索語を探せばよい。まずカーソルを「キーワード（漢字）」に移動して、[ブラウズ]（f・7）を押し、“米”と“@”を組み合わせて部分一致の検索語をこしらえてリターンすれば、ウインドウが開かれて、“米”を含んだ検索語郡が表示される。スクロールしてゆけば、設定された65個の検索語が見られる。その中から最適語を取り込んで検索すれば、件数はぐんと絞られるはずだ。ちなみに、“@米”で[ブラウズ]した画面の一齣が図9だが、ここで意外なことを発見する。“米（コメ）”は原則的に排除されて“コメ”の方にまわされたのに、熟語となって「モチ米」のように“米（ゴメ）”と濁って読むケースや「外米」のように“米（マイ）”と読むケースは、アメリカと仲良くしているという事実。なんだか、このソフトを作った人の迷いまでが見え

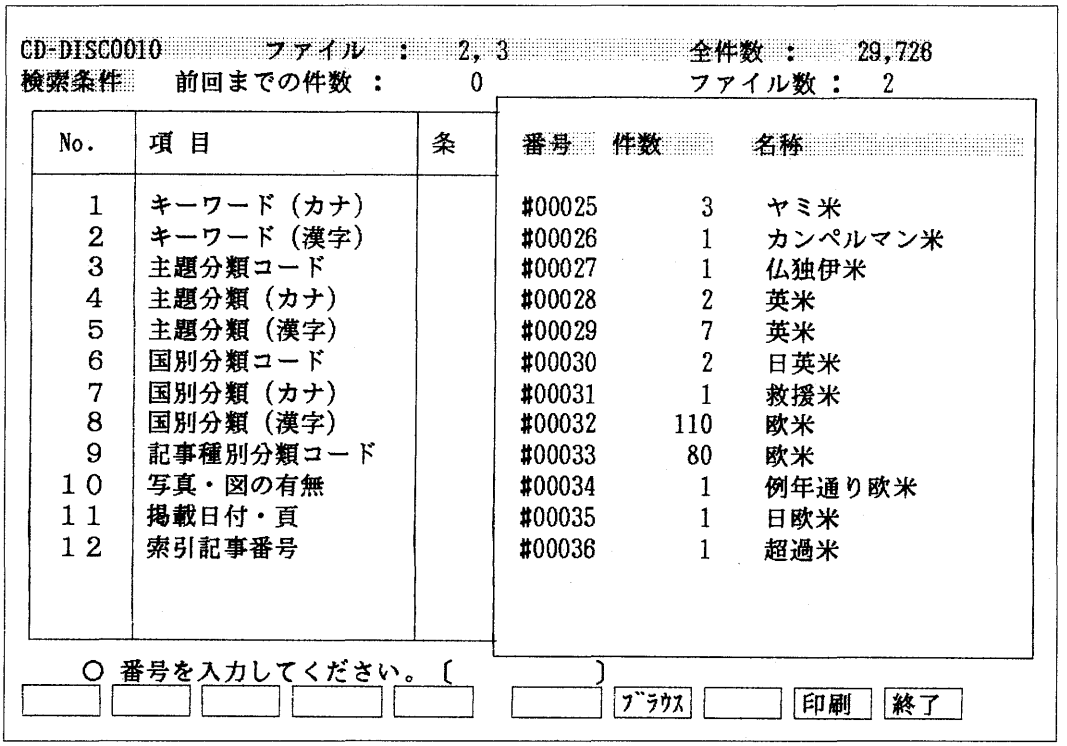

図9 ブラウズ画面

てくる思いだ。

注6 カナ指定の項目は必ず半角で入力すること。

注7 記入の仕方は「ヘルプ」で調べる。

5．その他の機能、そして、まとめ

これまで見てきたように、朝日新聞データーベースは、検索語さえうまく選べば、キーワード検索だけで十分、という気がする。件数が多そうなら、あと1つ2つの項目に条件を掛けて絞ればよい。私たちが新聞のデーターベースに求めているのは、すべての篩いをくぐり抜けて残った極小の珠玉では多分ないだろう。それよりも、むしろ、多少光は鈍くても原石が早く見つかる方がいい。とすれば、あまりたくさん条件を設定するのはやめて、キーワード中心で検索した方が、時間も労力も少なくてすむ。

ところで、新聞のデーターベースというのは、私のように、以前見た記事を確認するために使う場合ももちろんあるが、あるテーマの関連資料を迅速かつ広範囲に収集できることが、やはりその最大の利点であろう。私たちの思考はいつもある見通しをもって論理を立てるが、データーベースにはそういう方向性がないだけに、実に意外なもの同士を結び付けて、私たちを驚かせてくれる。大げさにいえば、ここは新たな発見の宝庫なのだ。

このデーターベースにはまた、掲載日付から検索する機能もある。某月某日を指定すれば、その日の記事がたちどころに揃う。確かに便利な面もあるが、日付がわかっている場合には、私はむしろ縮刷版の方を薦めたい。なぜなら、新聞の情報にも、それなりに視覚的要素はあるからだ。活字の大きさ、記事のレイアウト、写真や絵の配置、こういう見た目の感じ、なんとはない人間的な温もりが、情報至上主義のデーターベースには決定的に欠けているように思われる。

最後に一言、版元への注文。確かにこのデーターベースは使いやすい。しかし、マニュアルだけは、バイブルズ・シリーズ汎用とせず、朝日新雑専用のものを作ってほしい。少しの手直しですむはずだ。